

NPO エコライフはままつの皆さまへ ～お礼とご報告～

はじめまして。私はマラウイ中部の村、マタピラ村の小学校と教師研修センターを拠点に芸術科目の指導のアシスタントとして活動している坂田真吾と申します。この度は、私たちの学校へソプラノリコーダーをご寄贈頂き誠にありがとうございました。今月初旬に、私の活動拠点である村の教師研修センターまでリコーダーが到着しました。地区のモデル校校長をはじめ、児童がとても喜んでおり、村の紹介を含め、そのご報告をさせて頂きたいと思います。

《マラウイとマタピラ (Matapila) 村の紹介》

マラウイは、アフリカ南東部の国で南北に伸びる細長い国で、日本の3分の1ほどの広さ(北海道と九州をあわせたほど)です。電気と水道の普及率は、どちらも10%以下で、多くの地域では、夜は月明かりで過ごし、水は井戸から地下水を汲み上げています。

マラウイは、日本ではそれほど知られていない国ですが、マラウイ産の紅茶やタバコなどが日本にも輸出されています。また、「ウォームハートオブアフリカ(アフリカの温かい心)」と呼ばれるほど、穏やかな心を持つ国民性があります。

私の任地の村であるマタピラは首都リロングウェから南東に50kmほどの郊外にあります。首都から近いとはいえ、電気の通っている家屋は中心地にごくわずかで、水道はありません。少し離れれば電気は全くない地域です。集落と集落をつなぐ道は舗装されておらず、乾季には砂埃が風で舞い上がり、雨季には道が沼ようになります。



村のメインロード



マタピラの一般的な村の家屋



マタピラの子ども

《贈呈した教師研修センターと小学校の紹介》

今回送って頂きましたリコーダーは、私の配属先である「マタピラ教師研修センター」へ贈呈させていただきました。マタピラ教師研修センターは地区のモデル校となる「マタピラ小学校」に併設されており、10校の小学校と1校の中等学校を統括しています。モデル校でリコーダーを使った音楽指導の授業と放課後クラブの後に、各小学校に均等に贈呈される予定です。小学校は Standard1(小学1年生相当)から Standard8(中学2年生相当)まであり、地区全体では約9000人の児童が在籍しています。給食はないため、午前6時頃から正午過ぎまで授業が通して行われており、最高学年は卒業認定の国家試験があるため、時には夜通し補習が行われます。

児童の各家庭に時間を知るための機器はないため、太陽の位置がおおよその時間を知る術となっています。そのため、雨季に雲で太陽が一日中隠れてしまう日などは児童の遅刻は増えます。しかし、基本的には学校で勉強できることは児童にとっての喜びであり、授業も意欲的に受けています。情報機器が全くない環境で育った子が多いため、授業で初めて、世の中にそのようなモノ(例えば、信号機というものには3つの色の光があること)があることを知ることが多いです。学校では深刻な教材不足のため、教師はモノの説明を口頭と板書で伝える授業が基本で、児童自らが考えたり体験したりという経験が少し足りないのかなと感じています。



マタピラ小学校への通学路



小学校校舎と教師研修センター



屋外教室での授業



音楽(音符について)の授業



修業式での成績発表



奉仕活動(レンガを敷いて道路整備)

《リコーダーの贈呈に際して》

マラウイの公立学校では、Expressive Arts(エクスペッシブアーツ；表現芸術)の科目が週に5時間設けられています。その単元は、音楽・裁縫・図工・体育・伝統ダンスなどが統合されたもので、その中で音楽的な内容は多いのですが、日本のような楽器の演奏を学ぶ単元はなく、現地特有の太鼓や踊り・歌が対象となります。歌も伴奏はなくアカペラで歌っています。このような状況でしたので、音階がある管楽器はとても子どもたちの興味をそそるものでした。特に私の住む地域では、リコーダーは子どもたちにとってだけでなく、現地の教員も初めて目にしたという人も多かったです。



放課後クラブでの合唱指導

今回の寄贈にあたり、配属先の教師研修センター長(初等教育アドバイザー)が長期の出張のため、地区のモデル校校長が受納しました。これらのリコーダーは日本のある団体の好意で寄贈していただいたものだということを伝えると、「ジコモ(現地の言葉で「ありがとう」という意味)」と何度も口にして、とても感謝していました。



地区のモデル校校長

モデル校での放課後クラブでは毎回、リコーダーを演奏できることを楽しみに来る児童が多いです。「(リコーダーを)持って帰って練習したい」とか「もっと練習したい!(4時間遠し練習の後に)」など、自分で息を吹き込んで自在に音色をつくることのできるリコーダーは子どもにとって大変に魅力的な楽器でした。



初めてリコーダーという楽器があることを知り、初めて触れるリコーダーに興味する子どもたちは、まずは思い切り吸ってみたい、吹いてみたい。



リコーダーの穴を塞ぐことで、ソ・ラ・シと音色が変わることに驚く子ども

今回、嬉しかったことの一つに、現地の教員の方が音楽指導に興味をもってくれたことがあります。現地の子どもたちはじめ教員も音楽は好きで、特に休日の教会(マラウイの多くはキリスト教徒のため週末は教会でお祈りをします)や、村を挙げてのトウモロコシ収穫祭、葬式などで歌ったり踊ったりと生活に根付いているのですが、楽譜を読んだり音符を学んだりという楽典の指導は苦手としている教師が多くいます。その理由は様々にあるのですが、主には音楽に関する知識の習得不足によるものです。そのような中で、寄贈していただいたリコーダーを使って、私が放課後クラブで音楽の指導をしていると、ある男性

教員が勤務時間外にもかかわらず、放課後クラブに音楽の指導補助を買って出てくれました。「児童が吹くリコーダーの音色と楽しそうに音楽を学ぶ姿に興味をもった」とのことでした。今回のリコーダーは現地の教員のやる気を刺激するものとなりました。このように教員が自ら動いてくれたことに感謝しています。



今回頂いたリコーダーは、まずは地区モデル校の放課後クラブで中心に使用され、教師研修センターで教員向けに研修が行われた後、センター管轄地区内の10校の小学校に分配されます。より多くの子どもがリコーダーに触れる機会が得られるよう教師研修センター長や各学校校長、教員と話し合っていきたいと思えます。

教師研修センター長はじめ、各学校の校長や教員、そして何より子どもたちが楽器に喜び、今回のことをとても感謝しています。

《報告者》

青年海外協力隊

平成24年度4次隊派遣

青少年活動(マラウイ)

坂田 真吾